

ぶらりわが街宮沢界隈

(27) 花・樹木をながめてぶらり散歩(春) —I—II— サクラ(桜)

○ ウコンザクラ(鬱金桜)

諏訪神社 宮沢町 2-36-23 境内入口の鳥居のそば左手。「西暦二千年記念植樹」

ウコンザクラは、オオシマザクラ系サトザクラの栽培園芸品種です。開花時期は、ソメイヨシノより遅めの東京では4月中旬頃、花弁は葉緑体を持つなど、ギョイコウザクラ(御衣黄桜)に似ているが、色は緑色が弱く淡黄色である、終わり頃になると淡桃色に変わります(紅変)。数百品種あるサクラの内では唯一黄色の花を咲かせる種です。花弁数は15~20枚程度の大輪咲きで、ギョイコウのような花弁は厚くなく気孔もない。命名はショウガ(生姜)科ウコンの根を染料に用いた鬱金色に由来し、別名、ウコンのサクラ「右近ノ桜」。その他、「黄桜」「浅葱桜(浅黄桜)」ですが、ギョイコウザクラを指すのかははっきりしていません。

主なウコンザクラ(東京都)新宿御苑・神代植物公園・馬事公苑・妙安寺(練馬区)・北区役所

○ ギョイコウザクラ(御衣黄桜)

昭島市役所庁舎南側沿い 田中町 1-17-1

ギョイコウザクラは、ウコンザクラと同様栽培園芸品種です。開花時期は、4月中旬~下旬に緑色の花を咲かせ、性質もウコンザクラに近い。花弁数は10~15枚八重咲きで、花弁は肉厚で外側に反り返っています。色は白から淡緑色で、中心部に紅色の状線があり、開花時に目立たないが、次第に中心部から赤みが増してきて(紅変)、散る頃にはかなり紅くなる。ウコンザクラに無い気孔が存在し、若干、緑色がある。江戸時代に京都の仁和寺(にんなじ)で栽培されたのが始まりと言われていて、古くからある品種です。また、シーボルトが持ち帰った標本が現存しています。命名の由来は、貴族の衣服の萌黄色に近いため。

主なギョイコウザクラ(東京都)代々木公園・小石川植物園・神代植物公園・松蔭神社(世田谷区)

○ シダレザクラ(枝垂桜)

観音寺境内本堂前の左石。大神 3-6-5 阿弥陀寺山門寄り境内右手。宮沢町 2-36-6

シダレザクラとは、枝が長く柔らかで、その名の通り枝垂れるサクラの総称。別名、イトザクラ。

枝が垂れるのは、枝の成長が速いため、木質化する前に重みで垂れ下がると言われている。エドヒガンザクラ(九州~本州に分布)の系統に多く、その変種にシダレザクラがある。品種も様々あり、ベニシダレやエベニシダレなどが有名だが、キヨスミシダレのような品種もある。

主なシダレザクラ(東京都)小石川後楽園・六義園(福島県)三春の滝桜(秋田県)角館武家屋敷(京都府)平安神宮・円山公園・醍醐寺(山梨県)身延山久遠寺

「多摩森林科学学園」桜保存林一八王子市甘里町 1833 高尾駅北口徒歩約10分

面積8ha、サクラ250種、約2000本が植栽されています。3月末~5月初旬まで花が見られます。これ程多くの品種を見られる所は、東京周辺では存在しないため大変混雑しています。

記

防犯宮沢支部 西山 禎一

←ウコンザクラ

↓御衣黄桜

観音寺(大神町)

阿弥陀寺(宮沢町)

